

## IV 消費者物価地域差指数の概要

消費者物価地域差指数は、各地域間の物価水準の差を測る目的で、昭和 22 年に初めて作成されたが、当初は東京都区部と比較都市についてフィッシャーの理想算式によって求めていた。昭和 27 年からは、全都市（28 都市）平均の価格と品目別支出金額ウエイトを用いた算式で算出するように改め、さらに、昭和 38 年からは、小売物価統計調査及び家計調査の調査市町村の拡大に伴って、次に示すような方法に改め、現在に至っている。

### 1 作成の範囲

消費者物価地域差指数は、都市階級・地方・都道府県庁所在市及び川崎市、北九州市について、全国平均を基準（=100）とした年平均の指数を、毎年 1 回作成している。

また、上記の指数を東京都区部の指数で除することにより、東京都区部を基準（=100）とした指数も併せて作成している。

なお、作成する系列は、持家の帰属家賃を除く総合、食料及び家賃を除く総合の 3 系列である。

### 2 価格資料

指数計算に用いる価格資料は、原則として小売物価統計調査によって得られた 167 市町村における小売価格であり、消費者物価指数と同様である。

### 3 ウェイト

指数計算に用いるウェイトは、作成年における家計調査の全国平均 1 世帯当たり品目別消費支出金額であり、作成方法は消費者物価指数と同様である。

### 4 平均価格

市町村別年平均価格は、上記価格資料を用いて 1 月から 12 月の単純平均により求める。た

だし、生鮮食品については各市町村の月別ウエイトを用いた加重平均による。

各品目の全国及び都市階級・地方別平均価格は、その品目の市町村別年平均価格及び総支出金額を用いた加重調和平均により求める。

$$p_i = \frac{\sum_j \alpha_j p_{ij} q_{ij}}{\sum_j \alpha_j q_{ij}} = \frac{\sum_j \alpha_j p_{ij} q_{ij}}{\sum_j \alpha_j \frac{p_{ij} q_{ij}}{p_{ij}}} = \frac{\sum_j \alpha_j e_{ij}}{\sum_j \frac{1}{p_{ij}} \alpha_j e_{ij}}$$

$p$  : 年平均価格

$q$  : 1 世帯当たり購入数量

$e$  : 1 世帯当たり支出金額

: 市町村が代表する地域の世帯数

$i$  : 品目

$j$  : 市町村

### 5 算式

消費者物価地域差指数の算式は下記のとおりである。

$$I_l = \frac{\sum_i \frac{p_{li}}{p_{0i}} w_{0i}}{\sum_i w_{0i}} \times 100$$

$w$  : ウェイト

$0$  : 基準地域（全国）

$l$  : 比較地域